

しもつけ環境フェアに展示参加！

2023年12月10日（日）、下野市役所において「下野市消費者まつり&しもつけ環境フェア」が開催され、当会は主催者の一角である「しもつけ環境市民会議」の関係団体として環境フェアに参加し、各種展示を行いました。以下、概要を紹介します。なお、詳細は当会ホームページを参照下さい。

日時 2023年12月10日（日）10時～17時

（展示は12月10日～12月15日まで）

会場 下野市役所 1階ロビー、市民広場

イベント内容

- ・らんま先生のサイエンスショー
- ・特殊車両展示（消防車、ごみ収集車等）
- ・参加団体の各種展示

当会の参加内容

- ・パネル展示（団体紹介、活動事例紹介）
- ・参考資料、書籍展示（ごみ問題、水資源環境、他）
- ・プラごみ汚染啓発冊子の販売
- ・体験型ごみ分別クイズ

主催 下野市、しもつけ環境市民会議

下野市消費者まつり実行委員会



開会式では坂村市長の挨拶がありました



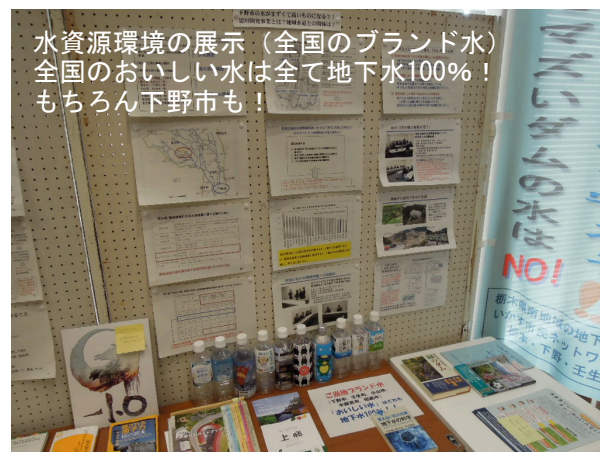
環境問題を考える会のブース

当日は天候にも恵まれ、約500人の来場者（主催者情報）で賑わいました。ごみ行政では「燃やすしかないごみ」の指定袋制導入計画があることから、当会ブースのごみ分別クイズはこれまでも増して注目され、分別に挑戦する来場者で盛況でした。また、水資源環境展示では下野市の水道水が地下水100%であることから、栃木県が下野市を含む県南2市1町にダムの水を売り込もうとしている問題に関心を示す来場者も見られました。

屋外の市民広場では、容器包装以外の廃プラスチックのリサイクルに取り組むため試験回収も行われました。



ごみ分別クイズに挑戦する参加者



水資源環境の展示（全国のブランド水）
全国のおいしい水は全て地下水100%！
もちろん下野市も！

水道事業について栃木県との協議に参加！

県南2市1町（栃木市、下野市、壬生町）では地下水100%の水道水が供給されていますが、栃木県は県南広域的水道整備事業として南摩ダムの表流水をこれら2市1町に売り込む計画を進めています。しかし多くの市民は安くて美味しい安全な地下水の水道水を維持するよう望んでおり、市政懇談会や市議会一般質問でも質疑が繰り返されてきました。そこで、1月9日（火）当会も参加する「栃木県南地域の地下水をいかに市民ネットワーク」と2市1町の市民団体および各市町議会議員有志が栃木県庁を訪問し、県が進める水道整備事業の目的と進捗について協議（3回目）を行いました。以下、概要です。なお、詳細は当会ホームページを参照下さい。

- ・日時 2024年1月9日（火） 15時～16時
- ・会場 栃木県庁北別館 401会議室
- ・県側出席者 総合政策課/竹井政策調整監、他6名

質問は事前に文書で提出しているのに、県は今回も回答を文書で準備せず口頭で原稿を読み上げるだけで、内容も従来の説明を繰り返すのみでした。市民のライフラインである水道事業にこのような姿勢で県が介入してくることに疑問を感じます。老朽化した配水場や配水管の更新が避けられない中で、多額の費用をかけてダムの水を新たに買うことは経済的にも合理性がないのは明らかです。



上記栃木県との協議結果を踏まえた 下野市との面談に参加！

当会も参加する「下野市の水道水を考える市民ネットワーク」は県南広域的水道整備事業に関する栃木県との協議結果（上記記事）を踏まえ、2月5日（月）に市の水道事業について坂村市長および関係職員と意見交換を行いました。以下に概要を紹介します。

- ・日時 2024年2月5日（月） 17時～18時
- ・会場 下野市役所 201会議室
- ・市側出席者 坂村市長、江連副市長、伊澤総合政策部長、保沢建設水道部長、他計8名
- ・市民ネット側出席者 中里代表、村尾市議、加藤市議、他計7名

市側の説明によれば、市内の配水管は老朽管の更新や耐震管への敷設工事を進めており、今後は老朽化した配水場の建て替えも必要になるので、これらの負担も踏まえ市民にとって最良の選択ができるよう慎重に検討して行くとのことです。



新緑の足尾銅山遺跡ツアーに参加！

足尾銅山は日本における公害の原点として知られていますが、明治以降の国策で戦時中は朝鮮人まで動員して銅の生産を支えた戦争遺跡でもあります。5月18日（土）足尾銅山遺跡ツアーの企画があり、好天の下、当会有志が参加しました。概要は以下の通りです。

- ・日時 2024年5月18日（土） 7:30～18:30
- ・行程 桐生～間藤～本山製錬所跡～銅親水公園～日光
- ・主催 下野市九条の会

新緑の中、わたらせ渓谷鉄道で行く眺めは絶景で、銅山関連の貴重な遺構や、最盛時が偲ばれる町並みの雰囲気を感じることができました。かつて煙害で消滅した周辺の山々も植樹ボランティアの努力で緑を取り戻しつつあります。また、足尾地区の水道水は全て渡良瀬川流域の伏流水（地下水）を水源としており、そのお陰で水が美味しいことも実感しました。詳細は当会ホームページを参照下さい。



福島原発構内および周辺地域視察に参加！

福島原発事故の後、県内でも下野市を含む多くの市町議会が「脱原発のエネルギー政策を求める意見書」を採択し、政府に提出しました。しかし事故から13年過ぎた今も約3万人の方が避難生活を強いられる一方で各地の原発が再稼働され、福島で増え続ける汚染処理水は漁業関係者の了解を得ないまま海洋に放出されました。除染した汚染土や各地に拡散した指定廃棄物は今も処分の目処が立っていません。福島の帰還困難区域では、地域崩壊や家族離散が進む中、これだけの被害に誰も責任をとらず、原子力緊急事態宣言は未だ解除されない状態が続いています。

このような背景の下、福島原発の現状を改めて体験するため3月に福島第一原発構内を含む現地視察会が企画され、当会からも多くの有志が参加しました。以下、概要を紹介します。当会ホームページには多くの写真も掲載していますので、詳細はそちらを参照下さい。

日程 2024年3月22日（金）～23（土）

視察先（1日目）東電廃炉資料館～福島第一原発構内

（2日目）中間貯蔵工事情報センター

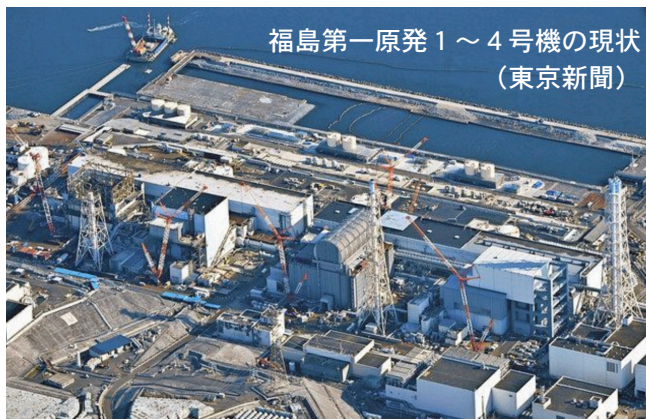
～中間土壌貯蔵施設～大熊町復興拠点

主催 原発いらない栃木の会

協力 東京電力ホールディングス（株）

参加者 栃木県内の市民・議員計26名（うち下野市民6名）

今回は初めて福島第一原発の構内を視察することができ、改めて大震災と原子炉爆発の深刻な被害および復興作業の大変さを目の当たりにしました。東電は燃料デブリの取り出し保管と放射性廃棄物の分散保管に拘っていますが、デブリの取り出しも最終保管先も目処が立っておらず、それはいつまでかかるのでしょうか。今も終息せず先の見えない現地の深刻な状況も実感することができました。甚大な被害の記憶が薄れかねない中、私たちは原発事故のもたらした実態を直視すると共に、このような原発に今後も依存して行くのか、改めて考え直す必要があると思います。



福島第一原発1～4号機の現状
（東京新聞）



福島第一原発構内での集合写真



大熊3工区土壌貯蔵施設

環境問題を考える会第27回総会&記念講演 予告ご案内（7/21 市民活動センター）

環境問題を考える会は1998年に発足して以来、市民の立場から地域の環境問題に取り組み続け、今年は昨年が27年目を迎えます。これも会員をはじめ多くの方のご支援とご協力によるものであり、感謝申し上げますとともに、今後ともご支援・ご協力よろしくお願い致します。

今年の総会は7月21日（日）に下野市市民活動センターで開催予定であり、概要は以下の通りです。記念講演では、上記記事で紹介した福島第一原発と周辺地域の視察報告および、それを踏まえて原発にどう向き合うべきかを解説します。講師は当会の中里勝芳代表です。詳細は別紙チラシやホームページ・Twitterで案内します。講演にはどなたでも無料で参加できますので、皆さま、是非ともご参加下さい。

日時 2024年7月21日（日） 13:30～16:30（講演は14:15～）

会場 下野市市民活動センター 研修室3（下野市緑3-5-1、Tel: 0285-32-7290）

講演 福島原発構内と周辺の視察報告～そして原発問題を改めて考える（仮題）

講師 中里勝芳さん（日本大学文理学部生命科学科・特任教授、環境問題を考える会・代表）

主催 環境問題を考える会（後援：しもつけ環境市民会議）

小金井空襲の講演会を後援、参加！

「小金井空襲」をご存じでしょうか。1945年（昭和20年）7月28日、宇都宮方面に來襲した米軍戦闘機のうち3機が東北本線列車を追尾し、小金井駅で機銃掃射を加えました。その結果、戦没者の慰霊を迎えるため駅に集まっていた民衆と列車の乗客が犠牲になり、31名が死亡、約80名が負傷する惨事になりました。この機銃掃射の状況は戦闘機のガンカメラに録画されており、NHKテレビでも放映されました。この小金井空襲に関する講演会が5月26日（日）に開催され、当会は「戦争は最大の環境破壊である」との立場から同講演会を後援、有志も多数参加しました。以下、概要を紹介します。

日時 2024年5月26日（日）14時～
会場 下野市市民活動センター 研修室3
演題 地域の戦災を語り継ぐ！～小金井空襲の記憶
講師 星野平吉さん（小金井空襲慰霊祭実行委員会・会長）
築昌子さん（小金井空襲の体験者、宇都宮市在住）
特別上映 米軍機ガンカメラによる空襲の録画映像
主催 下野市九条の会（総会記念講演として企画）

築さんが語る機銃掃射の体験やガンカメラの映像は衝撃的なものでした。悲惨な戦争を2度と繰り返さないため、地域の戦災は世代を越えて語り継いで行くことの必要性を改めて感じました。



原発いらない栃木の会総会講演会に参加！

2011年3月の福島第一原発事故により、私たちは原発事故の恐ろしさを思い知ったはずでした。福島県では避難生活による災害関連死が2,300名に上り、今も数万人の方が避難生活を強いられ、原子力緊急事態宣言は未だ解除されていません。にもかかわらず、政府は再び原発帰りに方針を転換し、事故以前から原発を推進してきた政・官・業・学・マスコミの原子カムの住人たちも、原発事故などなかったかのように原発推進の姿勢を改めていません。こうした背景の下、当会会員も多数参加する「原発いらない栃木の会」の総会&講演会が6月8日（土）に開催され、下野市民も多数参加しました。講演会では、原発の取材をライフワークとするジャーナリスト・青木美希さんが豊富な取材結果に基づき「なぜ日本は原発を止められないのか」を解説しました。以下、概要です。詳細は当会のホームページを参照下さい。

日時 2024年6月8日（土） 13:30～16:30
会場 栃木県弁護士会館 4F大会議室
総会 13:30～14:15 / 講演 14:30～16:30
演題 なぜ日本は原発を止められないのか
講師 青木美希さん（ジャーナリスト、作家）
主催 原発いらない栃木の会

当日は約130名の参加者（うち半数が一般市民）で満席となるほど盛況でした。能登半島震災では原発避難計画が成り立たないことも明らかになりました。日本の原発をどう考えるのか、いま私たち市民の姿勢も問われています。



会員募集中！「環境問題を考える会」では広く会員を募集しています。

地域の環境を大切にしたいと思う皆さん、是非ご参加下さい。

●年会費：1,000円 ●払込先：郵便口座番号 00160-1-139315

●問い合わせ先（事務局）

磯辺☎0285-44-6621/平戸☎0285-44-6621/益子☎0285-44-6891

E-mail : kankyomk@ja2.so-net.ne.jp

Homepage : <https://kankyomk.wordpress.com>